

# 聖書日課 『からし種』 2019.11.17-24

<p><b>17日</b> <b>(日)</b></p> <p>士師記 3章</p>	<p>「国は…平穏であった」(11節)。ヨシュアの死後、イスラエルの人たちは、他の神々を礼拝し、そのたびごとに神の怒りを知ることになる。主に立ち帰ると、「主は彼らのために一人の救助者を立てられた」(15節)。人々が主の前に一つになろうとするとき、国は平穏な時が備えられていた。主によって一つとなる群れの姿をみる。</p>
<p><b>18日</b> <b>(月)</b></p> <p>士師記 4章</p>	<p>「ラピドの妻、女預言者デボラは、エフライム山地のラマとベテルの間にあるデボラのナツメヤシの木の下に座を定めた」(5節)。士師記4章は女性たちの名前が多く登場する。戦いが日常にある中で、女性たちも、男性たち同様にそれぞれの現実の中で主に従い歩んでいる姿が描かれている。主が伴われるわたしの現場はどこにあるのかを心に留め歩みたい</p>
<p><b>19日</b> <b>(火)</b></p> <p>士師記 5章</p>	<p>「デボラとアブノームの子バラクは、その日次のように歌った」(1節)。女預言者デボラの勝利の歌は、「戦いに勝った！」という主が勝利を導いてくださった喜びの歌だけでなく、負けて息子を失った母の悲しみの歌も一緒に歌われる。喜びの中にある小さな痛みにも共感する姿に、キリストを見る。主の慰めをいただくものとして、隣人と出会う者とされて</p>
<p><b>20日</b> <b>(水)</b></p> <p>士師記 6章</p>	<p>「ギデオンは、酒ぶねの中で小麦を打っていた。主の御使いは彼に現れて言った。『勇者よ、主はあなたと共におられます』」(11-12節)。ギデオンは、ミディアン人の略奪から免れるために、隠れていた。主の勇者は、果敢に戦うのでもなく、隠れて、主の約束を何度も何度も確認しながら進んでいった。主の先立ちをいつも感じながら歩むギデオンに倣って。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.11.17-24

<p><b>21日</b> <b>(木)</b></p> <p>士師記 7章</p>	<p>「ギデオンは、その夢の話と解釈を聞いてひれ伏し、イスラエルの陣営に帰って、言った」(15節)。主は酒ぶねに隠れていたギデオンと共に歩まれた。その歩みの中に、ギデオンに必要な主の言葉がちりばめられている。イスラエルによって滅ぼされた民を思うと、神の計画がわからなくなるが、主の声に耳を傾けようとするギデオンの姿から学びたい。</p>
<p><b>22日</b> <b>(金)</b></p> <p>士師記 8章</p>	<p>「わたしはあなたたちを治めない。息子もあなたたちを治めない。主があなたたちを治められる」(23節)。主に導かれたギデオン。しかし、ギデオンはその土地を自分で治めることはせず、主がその土地や人々を治めると語っている。主が治める世界、その世界を託されている私たち。主の良き管理者としてどのように主の言葉を生きることができるだろうか。</p>
<p><b>23日</b> <b>(土)</b></p> <p>士師記 9章</p>	<p>「ヨタムは逃げ去った。彼は逃げてペエルに生き、兄弟アビメレクを避けてそこに住んだ」(21節)。勇者ギデオンの末っ子、生き残ったヨタムは、兄弟アビメレクと、その親類たちに言葉を残して姿を消していく。逃げたヨタムの残した言葉だけはアビメレク、シケムの人たちの心に残り続けた。大きな功績を残さなくても、その言葉が私たちの心に残って、生き続ける。</p>
<p><b>24日</b> <b>(日)</b></p> <p>士師記 10章</p>	<p>「しかし、あなたたちはわたしを捨て、他の神々に仕えた。…あなたたちの選んだ神のもとに行って、助けを求めて叫ぶがよい」(13-14節)。「助け」が必要な時だけ神を求め、信仰が、私の中になんと根強いことか。それは神を「利用する」信仰に過ぎない。「利用する」のではなく、神の義と神の愛を尋ね求め、神に「従う」信仰に生きることができるよう。</p>